

椿と水仙の島で何が？

今から43年前の冬 長崎県の五島列島を訪ねました。

PCB汚染のことを調べているうちに、PCB入りのカネミ米ぬか油で被害を受けて、多くの人が苦しんでいると聞いたためです。長崎から船で4時間、そこから1時間バスに揺られ、さらに渡海船に乗って、着いた町の中心から40分ほど歩いた集落では7～8割の人が油症の被害を受けているとのことでした。



その時にお会いしたお二人のお話です。

三人力の漁師だったAさん

昼にはおひつ一杯の飯を食べ、お茶時にはパンを8つもたிரげた三人力の漁師だったのに、カネミの油を食べてから体がすっかりだめになってしまった。痛みに耐えかねて、たまらなくなって診療所で痛み止めの注射を打ってもらうことが連日続くこともある。こぶし大のコブが、ひざや内股や体のあちこちにできる。できたかと思うと4～5日で消えて、次には別なところができる。このくり返し。背中から腰、足先まで節々が痛むし、吹き出物で体中がぶつぶつになってたまらなく痛がゆい。全身に薄いゴムの手袋をしているような感覚があって、はがしたくてもはがれない。まるで自分の体じゃないみたいだ。

好きな酒が飲めなくなったBさん

頭から全身に吹き出物ができて髪の毛が禿げた。好きだった酒を飲むとむかつくのでやめた。田植え時にカネミ油を買い、ドーナツなどを揚げて近所にもふるまった。吹き出物やむかつきの原因がこの油だとわかるまで、家族で約9升の油を食べた。

3年ほど前、関東に住んでいる友人がカネミ油症の被害を受けていたことがわかり、西日本だけの問題ではなかったこと、被害者の苦しみはずっと続き、ほとんど救済がされてこなかったことに大変ショックを受けました。今も続いているカネミ油症被害のことが多くの人に伝わって、願っています。

今も続く カネミ油症の苦しみ

第33回 ダイオキシン国際会議での訴え

カネミ油症五島市の会 事務局長 宿輪 敏子さん

…私がPCBやダイオキシンを食べてしまったのは6歳の頃です。母が何も知らず、安売りされていたカネミ油を買ってきたのです。私たち家族は、その油に猛毒が入っているとは夢にも思わず、いつものように美味しい母の手料理を数か月間、食べ続けました。しばらくして、健康だった家族全員に異変が起こりました。

顔や背中に、大小さまざまな吹き出物ができ始め、朝、起きると大量の目脂で目が開かないほどになりました。顔のむくみも尋常ではなく、ブヨブヨになった歯茎からは、歯を磨くたびにだらだらと血が出ました。爪は黒っぽくなり、波を打つように変形しました。体が異常にだるく、小学校の階段は手すりにつかまることなしでは上れませんでした。ご飯を食べた後は、お腹がムカムカして具合が悪くなり、食べたらずくに横たわるようになりました。

カネミ油を食べ始めて1年半後には、母が40度の熱を40日間も出して、死にかけました。点滴も薬も効かず、何が原因でどこが悪いのかもわからない中、母は死を覚悟で、開腹手術を受けました。お腹にメスを入れると、執刀医の顔に飛び散るほどの大量の膿が、肝臓に溜まっていたそうです。その膿を取り除いて肝臓に触ってみたところ、「ザクッ」と音がしたのだと聞きました。肝臓に砂のような《石》が大量にできていたのです。…母は一命を取り留めましたが、その後も入退院を繰り返し、苦しい日々を送りました。その時の《石》は、今でも母を苦しめています。

母の苦しみは、体の被害に止まりませんでした。家族に毒を食べさせたと、今でも時々涙を流し、悔やんでいます。さらに母を苦しめたのは、当時、母が経営していた食堂でもカネミ油を使っていたことでした。…お客さんの中に体中の毛がすべて抜け落ちた人がいました。髪の毛はもちろん、眉毛やまつ毛、鼻毛やすね毛に至るまで、すべての毛が抜け落ちたのです。…ダイオキシンが混じっていると知らなかったとは言え人様に食べさせたその苦悩は誰もはかり知ることはできません。✖

